

I. 歓迎の挨拶

- A. グッドモーニング！おはようございます！カルバリー教会岩国にようこそお越しくできました。主を礼拝するために集まり、皆さんと一緒にここに
いることができるともうれしいです。
1. 新しく訪れた方々やオンラインを通して礼拝に参加している方々も歓迎します。
- B. 礼拝を進めていく前に、小学生の子供たちは日曜学校のクラスに行ってもらいましょう。
1. バイブルイングリッシュクラスも同様に行ってください。(第二礼拝のみ)
- C. 先週、私たちはヘブル人への手紙の学びを、この手紙の著者、受け取り手、
時期、そして、この本の全体的なメッセージなどを取り上げることによって
この手紙の概要からはじめました。
1. 先週参加されている方は、ヘブル人への手紙の全体的なメッセージが
キリストの優位性と優越性であることを覚えておられるでしょう。
 2. この手紙の著者は、その時期に困難な時を経験しているユダヤ人信者
のグループに向けて書いています。キリストへの信仰のゆえに迫害を
受け、そして、律法の下での古いやり方に戻った方がいいのではないかと
考え始めている人たちがいました。
 3. 著者は、基本的に、彼らが古いシステムの元に引き戻されるものは、キ
リストにあるものよりも劣っていると説明しています。キリストは、古
いシステムが提供していたすべてのものよりもすぐれています。
 4. ユダヤ教の古いやり方は、単にすべて、イエス・キリストが成就された
ことの前兆であり、描かれたものであり、その事柄の種類(型)でした。
古いものは、来るべき神のもの影であり、キリストは肉なる神の現実
であった。
- D. 先週は、最初の 3 節を読みましたが、それを解説する時間は取りませんでした。
今朝は、これらの節に入っていき、主が私たちに何をを用意してくださっ
ているかを見ていきます。
- E. それでは、お手元に聖書をお持ちでしたら、ヘブル人への手紙 1 章を開いて
ください。
1. もし聖書をお持ちでない方は、礼拝堂の椅子の下に置かれている教会
の聖書を手に取って開いてください。
 2. 私は、皆さんがご自分の聖書を持ってこられることをお勧めします。私
は私が持っている聖書を読みますので、皆さんはご自分の聖書を読み
ながらついてきてください。もし、ご自分の聖書をお持ちでないなら、
ぜひ手に入れてください。少なくとも、携帯電話に聖書アプリをダウ
ンロードなさって、それをお使いください。
 3. 御言葉に沿って読み、神の御言葉が何を語っているのかを自分の目で

確かめることは大切なことです。

- F. 今朝の学びの箇所は、先週と同じです。へブル人への手紙 1 章 1 節から 3 節です。概要、またノートを取ったりするのが好きな人のために、私たちの学びのタイトルは「さらにすぐれた啓示」です。
- G. 神と神の御言葉に敬意を表して起立していただけますか？今朝は聖書を読み、それから祈り、神の御霊が私たちを導き、神の御言葉を通して導いてくださるようお願い求めます。
 - 1. もう一度繰り返しますが、へブル人への手紙の著者は、1 章 1 節に次のように書いています... (R & P)

II. 前書きと概要

- A. すでに述べましたように、へブル人への手紙は、ユダヤ教の古いやり方に対するキリストの優位性と優越性について書かれています。そして、この手紙の著者は、時間を無駄にすることなく、自分の主張を構築しています。
 - 1. この 1 章の冒頭の節で、すぐに預言者たちの過去の働きと、彼らを通して神がどのように語られたかを持ち出して、本題に入っています。
 - 2. ここで「預言者たち」と言っているのは、私たちが良く知っている「預言者」の職務や特定の任務だけを言っているのではありません。旧約聖書の預言者たち、イザヤ、エレミヤ、エゼキエル、ダニエル、ゼカリヤ、マラキなどだけと言っているのではありません。
 - 3. ここで「預言者たち」という言葉が使われているのは、より一般的な意味で言われています。この言葉は、神がご自分の意志を知らせた、神の友とみなされる人々、つまり、神の御意志と語計画を他の人に伝えるために、何らかの形や方法で神がご自身を表された人々を指している。
 - a. これには、私たちが良く知っている旧約聖書の預言者たちだけでなく、アブラハムや家長たち、モーセ、ダビデ、さらにはノア、そして園で神が語りかけたアダムにまでさかのぼることができるでしょう。
 - 4. 著者は、世界の歴史を通して、神が過去に、さまざまな方法で、さまざまな時にどのように語ってきたかを強調し、そして神が現在、どのように語っておられるかと対比させています。
- B. 今朝は、学びをシンプルに 2 つに分けます。
 - 1. 1 節では、神が以前に人間にどのように語られたか、神の過去の啓示に注目していきます。
 - 2. そして、2 節と 3 節では、神が現在どのように人に語られることを選ばれたか、神の現在の啓示について学んでいきます。
 - 3. そして、著者が主張しようとしているのは、神が現在ご自身を明らかにされる方法は、過去にご自身を明らかにされた方法よりもはるかに偉大であるということです。
 - 4. それでは、1 節に入っていきます。神が過去にどのようにご自身を現わされたかを調べていきましょう。

III. へブル人への手紙 1 章 1 節；神の過去の啓示

- A. 著者はまず、神は実際にさまざまな時に、さまざまな方法で人間に語りかけてきたと主張しています。
1. 神は、神ご自身や神のやり方を私たちに明かすことを決して望まず、誰からも隠れて秘密にしておくような、宇宙規模のかくれんぼのようなゲームをしているわけではありません。
 2. 神は、さまざまな時にさまざまな方法でご自身を現わすことを選ばれました。このことは聖書にはっきりと記されています。
- B. 聖書は、神は創造そのものを通して、ご自身を現わされたことを証明しています。
1. 詩篇 19 章には次のようにあります。「1 天は神の栄光を語り告げ、大空は御手のわざを告げ知らせる。2 昼は昼へ、話を伝え、夜は夜へ、知識を示す。3 話もなく、ことばもなく、その声も聞かれない。」(詩篇 19 章 1 節 - 3 節)
 2. 神は天国の創造を通して、この地上を歩いたすべての部族、言語、国家に語りかけています。世界中の人々が遠い昔から空を見上げ、太陽、月、星、そしてすべての神の御業を見る時、唯一もっともらしい説明は、そのすべてを造った創造主がいること、すべてを動かした「指示者」がいることです。
 3. これらの単純な事実を私と一緒に考えて、どうしてこれが偶然に起こったのか、教えてほしい。
 - a. 私たちが今いる地球は、時速約 1,000 マイル (時速 1,609 キロ) という信じられない速さで自転しています。
 - b. そして、時速 1,000 マイルで自転しながら、太陽の楕円軌道を時速約 67,000 マイル (時速 107,826 キロ) の速度で周回しています。
 - c. そして、地球が回りながら太陽の周りを周回している間、太陽は自転軸の周りを時速 4,500 マイル (時速 7,242 キロ) で周回しています。
 - d. そして、我々や太陽系の他の全ての惑星とともに、天の川銀河を通る軌道を時速 514,000 マイル (時速 827,202 キロ) 以上の速度で周回しています。
 - e. そして、天の川銀河は、科学者が観測可能な宇宙と呼ぶ、何十億、何百億とあるとされる他の銀河の 1 つに過ぎません。
 - f. あらゆるものが回転し、猛スピードで駆け巡り、様々な方向移動し、しかも、すべてが決められた道筋をたどっています。神は、物事が無謀に回転して制御不能にならないように、神の宇宙の中に力を創造されました。
 - g. 私たちは、空と今の季節を示すことができるし、方向も知ることができます。このようなことはただ偶然に起こることではありません。
 - h. 天国は、真に神の栄光を宣言しているのです！
 4. パウロは、ローマ人への手紙の中で、神の創造について同様に証言しています。人は誰も、自分が神を知らなかったこと、神に気づいていなかったことを証言することはできないと述べています。

- a. 「19 それゆえ、神について知らされることは、彼らに明らかです。それは神が明らかにされたのです。20 神の、目に見えない本性、すなわち神の永遠の力と神性は、世界の創造された時からこのかた、被造物によって知られ、はっきりと認められるのであって、彼らに弁解の余地はないのです。」(ローマ人への手紙 1 章 19 節－20 節)
- b. 神の目に見えない属性は、私たちを取り巻く世界にはっきりと現れています。神の存在を知らないという言い訳はできません。神は神の創造物を通してご自身を現わされたのです。
- c. ヨブはこのことを知っていました。
「7 しかし、獣に尋ねてみよ。それがあなたに教えるだろう。空の鳥に尋ねてみよ。それがあなたに告げるだろう。8 あるいは地に話しかけよ。それがあなたに教えるだろう。海の魚もあなたに語るだろう。9 これらすべてのもののうち、主の御手がこれをなされたことを、知らないものがあるだろうか。10 すべての生き物のいのちと、すべての人間の息とは、その御手のうちにある。」(ヨブ記 12 章 7 節－10 節)
- d. 創造物は知っている。野の野獣も、空の鳥も、海の魚も知っている。イエスによれば、岩でさえも知っている。神は創造物を通してご自身を現わされました。
5. しかし、創造物は神と神の御業について語ると同時に、神の目に見えない属性のいくつかを明らかにし、創造物のほとんどは、すべてを創造された神がいることを知っています。私たちは時に混乱します。
- a. そうです、私たちは、神の夕日や星空に神の美しさを見ます。しかし、神の創造物を見渡すとき、私たちは死や腐敗、破壊も見ます。
- b. それは、創世記 3 章でアダムが墜落した時(罪を犯した時)、罪と死がこの世に入り込みました。そして、アダムの罪は、創造物全体に影響を及ぼし、今、私たちは外を見て、おそらく少し混乱したり矛盾したりするものを見えています。
- c. 私たちは命を見、成長を見、神の御業を見ますが、と同時に死と破壊、そして罪の影響も見ます。
- d. ですから、神は私たちに語りかけ、創造物を通してご自身を現わされたが、罪のために創造物のメッセージは時に混乱を招きます。
- C. しかし、歴史を通して、神がご自身を現わす方法は他にもありました。創造物を通してだけでなく、私たちの自身の良心を通してである。
1. 神は、私たちの心に神の律法を書き記されたように人を造られた。そして、私たちの心の良心は、神と神の道について証言します。
- a. これは聖書が教えてくれていることです。パウロはローマ人への手紙の中でこのことを語っています。「14 律法を持たない異邦人が、生まれつきのままで律法の命じる行いをする場合は、律法を持たなくても、自分自身が自分に対する律法なのです。15 彼らはこ

のようにして、律法の命じる行いが彼らの心に書かれていることを示しています。彼らの良心もいっしょになってあかしし、また、彼らの思いは互いに責め合ったり、また、弁明しあったりしています。」(ローマ人への手紙 2 章 14 節 - 15 節)

- b. 神は、私たちの心に、神の律法、神の道を書き記された。私たちの良心、私たちの心は、何かが正しいか間違っているかを教え、直感的に知っています。神は、ご自身に似せて人間を造られ、ある種の道徳的指針を持たせ、私たちが言い訳ができないように、神の律法を私たちの心に書き記してくださいました。
2. それにもかかわらず、神は私たちの中に知識を持った状態で私たちを創造したにもかかわらずです。なぜなら、私たちは罪人であるため、その真実を抑圧しがります。
 - a. 私たちは、神が私たちの心に書かれたことを無視しようとしています。
 - b. そうすればするほど、神の御意志とご計画を見極めることが難しくなります。私たちは結局、罪によって良心を焼かれることとなります。
 - i. テモテへの手紙第一 4 章 2 節には、罪を犯し続けることによって、私たちの良心がいかに熱い鉄で焼かれるかを説明しています。

「2 それは、うそつきどもの偽善によるものです。彼らは良心が麻痺しており、」(テモテへの手紙第一 4 章 2 節)
 - c. 私たちの良心が罪によって炙り出されるにつれて、神と神の道に対して敏感でなくなっていくます。私たちは罪に対して鈍感になり、心が荒れ、神が私たちの心に書かれた神の律法に従わなくなります。
3. ですから神は、私たち自身の良心、私たち自身の思い、私たち自身の心を通してご自分を現わされたのだが、またしても罪が、私たちがメッセージを受け取ることに問題を引き起こします。罪だけではなく、私たち自身も同様です。私たちは神に従い、神の道で物事を行う必要がないため、その真理を抑圧してしまうのです。
 - a. 自己がその真理を抑圧し、罪が私たちの良心を焼き尽くします。私たちは心が荒み、内なる神の御業に反応しにくくなります。神の啓示を見分けることが難しくなります。何が正しくて何が間違っているのかを知ることが難しくなるのです。
- D. ですから、神は創造物、そして私たちの良心を通してご自分を現わされますが、それだけではなく、学びの聖書の中でも述べられたように、神は預言者たちを通してもご自分を現わされたのです。
 1. 神は、預言者たちによって、先祖たちに様々な時に様々な方法で語られました。
 - a. イザヤ書 6 章で、神はイザヤに神の王座の幻を与えた時、神は幻視を通してご自分の民に語られました。

- b. 神は、ヤコブに天まで届くはしごの夢を見せ、神の天使たちがそのはしごを上り下りするのを見たとき、神は夢を通してご自分の民に語られました。
 - c. 神は、信仰の父であるアブラハムを通してご自分の民に語りかけ、父の家から出るようにと呼びかけられました。
 - d. 神は、モーセを通してご自分の民に語りかけ、山の上で何度もモーセと会い、モーセの天幕でモーセと対面しました。
 - e. 神は、エレミヤを通してご自分の神に語りかけ、預言者に示させた多くの教訓を示された。
 - f. 神は、ホセアを通して、彼の結婚をイスラエルの子らと神との関係の例として用いて、ご自分の民に語られました。
 - g. そして、延々と続きますが、神が預言者たちを通して先祖たちに語られた様々な時、様々な方法を挙げればきりがありません。
2. しかし、神が預言者たちを通してご自身を現わされることの難しさは、預言者たちが一度に断片的な情報しか与えられなかったことにあります。彼らは、全容をつかめず、すべてがどのように組み合わせられているのか理解できていませんでした。
- a. 彼らに与えられたのは、もっと断片的なものでした。何年もの間、ここで少し、そこで少しと。
 - b. 彼らは、メシヤがご自分の民を救うために来られることを知っていました。彼らは、神が王国を建てられることを知っていました。彼らは、その王国について予言したが、神の苦しみについても預言しました。
 - c. 彼らは、神のために道を開く先駆者がいることを知っていたし、メシヤがどこで生まれ、どのような血筋から来るかも知っていました。
 - d. しかし、そのすべてがどのように組み合わせられているのか、彼らは途方に暮れていました。彼らは、神の救いの御業をもたすために、それがどのように組み合わせられるのか、理解できなかったのです。
 - e. ペテロは次のように書いています。「10 この救いについては、あなたがたに対する恵みについて預言した預言者たちも、熱心に尋ね、細かく調べました。11 彼らは、自分たちのうちにおられるキリストの御霊が、キリストの苦難とそれに続く栄光を前もってあかしされたとき、だれを、また、どのような時をさして言われたのかを調べたのです。」(ペテロの手紙第一 1章 10節-11節)
 - f. 預言者たちは、それがどのように組み合わせられるのかを注意深く尋ね、探したが、途方に暮れた。彼らは、全体像を見ることができませんでした。
 - g. 彼らは、キリストが 2 つの異なる到来を遂げることを理解していませんでした。まず最初は、私たちのために自ら進んでご自身の命を捨てる神の子羊、苦難のしもべとして。次の 2 つ目は、征服す

る王として、ユダ族の獅子として来て、国々を裁き、地上の支配をする。

3. 神は、様々な時期に預言者を遣わし、様々な方法で彼らに語られたが、彼らのメッセージは不完全でした。彼らは、全体像を把握できなかつた。
- E. つまり、神の過去の啓示は、様々な時期、様々な方法で与えられたことが分かります。神は、天地創造を通してご自身を現わされ、私たちの良心を通してご自身を現わされ、預言者たちを通してご自身を現わされました。
1. しかし、罪とそれがこの世と私たちの人生に及ぼす影響のせいで、私たちはいつもメッセージを受け取ることができませんでした。メッセージは時に混乱を招き、不完全に感じられました。明確な時もありましたが、私たちは、その真理と戦い、それを抑圧しました。
 2. ですから、神がご自身を現わすためには、もっと良い方法が必要でした。そこで、キリストが登場するのです。神の過去の啓示から現在の啓示へと移行する 2 節の冒頭部分を一緒に読みましょう。

IV. ヘブル人への手紙 1 章 2 節前半

- A. ユダヤ人は、世界の年表を 2 つの時代、2 つの異なる時間で見えていました。罪、束縛、神への反抗を特徴とするメシヤ以前の時代と、メシヤの後に来るとであろうやって来る義の時代を告げる時代です。
1. ユダヤ人たちはメシヤが現れる前の時代に生きていました。彼らは、メシヤが来るのを待っていました。預言者たちを通して主によって預言され、予告されていたことを知っていました。
 2. 彼らは、メシヤが現れ、イスラエルの子供たちのために平和な新しい季節がくるお告げを期待していました。メシヤは、永遠の王国を建てようとしていました。メシヤが支配し治め、過去の困難や試練がすべて拭い去られる王国である。
- B. イエス・キリストが 1 世紀に登場した時、イエス・キリストは来られ、霊的な王国を建てられましたが、物質的な王国ではありませんでした。イエス・キリストが来て人々を開放したのは、ローマやその他の政治的な存在による束縛や抑圧からではなく、むしろ罪への束縛から人々を開放したのです。
1. イエスはユダヤ人にとって待望の季節の到来を告げたように見えたが、それはある意味で不完全な物でした。イエスは、すべての預言者たちを成就しませんでした。イエスは、期待されていたように戻って来て地上の王国を支配し治めることはありませんでした。
 2. ユダヤ人たちは、メシヤが二度別々に来られること、そしてその二度の間に、預言された神の王国が発足したが、まだ完成してはいない時期が重なっていることに気づいていませんでした。
 3. 私たちは一般的に、神の国が発足したが、まだ完成していない時期の重なりを「終わりの日」と呼びます。
- C. そして、ヘブル人への手紙の著者はこの 2 節で、この終わりの日、キリストの初臨と再臨のこの時代の間、この現代において、神は御子によって私たちに語られることを選ばれたことを述べています。

1. なぜなら、そのメッセージは時に混乱を招き、不完全に感じられるからでした。罪が私たちがメッセージを完全に理解することを妨げていたため、**神は御子を遣わし、ご自身の贖罪の計画を現わされました。**
 2. イエスはすぐれた啓示です。他のすべての形が足りなかったところで、キリストは神の御計画を完全に明らかにしている。預言された福音のメッセージは、イエスキリストが赤ん坊の姿でこの地上に来られ、罪のない生涯を送られ、私たちのためにカルバリーの十字架の上でその人生を終えられた時に実現しました。イエス・キリストは全人類の罪の罰を受けて、私たちの罪の代価を支払われ、そして勝利のうちに墓からよみがえられ、罪と墓に打ち勝つ力を示されたのです。
 3. イエスは、私たちの救いに対する御父の意志とご計画を完全に明らかにし、十字架の上で「終わった」と宣言されました。イエスは、創造物、預言者たち、そして私たち自身の良心がなしえなかったこと、すなわち御父の御計画を私たちに完全に明らかにされたのです。
 4. キリストを知る時、私たちは罪から救われ、神との完全な関係を持つために必要なものをすべて持っています。イエスを通して、神は、私たちの救いと永遠の贖いのために、主について私たちが知るべきことをすべて明らかにされました。
 5. 神が言いたかったこと、言う必要があったこと、言おうとしていたことは、御言葉が肉となって私たちの間に宿られたときにすべて語られました。それ以上の啓示はありません。**私たちが知るべきことはすべて、イエス・キリストとの関係の中にあります。**
- D. 学びの節の残りの部分では、イエス・キリストがすぐれた啓示であり、よりすぐれた啓示であるという考え方をより強固なものにするために、著者は、イエス・キリストを他のすべての人たちから切り離す 7 つの特徴を挙げています。

V. ヘブル人への手紙 1 章 2 節後半 - 3 節

- A. 2 節は次のように続いています。「神は、御子を万物の相続者とし」
1. 神は、イエス・キリストをすべてのものの相続人に任命されました。イエスは、将来の王国を予告した昔の預言者たちよりも偉大な方であり、王国の相続人だからです。
 2. 預言者たちは詩篇 2 章で、キリストについて次のように語っています。
「6 しかし、わたしは、わたしの王を立てた。わたしの聖なる山、シオンに。7 わたしは主の定めについて語ろう。主はわたしに言われた。8 『あなたは、わたしの子。きょう、わたしがあなたを生んだ。わたしに求めよ。わたしは国々をあなたへのゆずりとして与え、地の果て果てまで、あなたの所有として与える。』」(詩篇 2 章 6 節 - 8 節)
 3. イザヤは預言しました。「6 ひとりのみどりごが、私たちのために生まれる。ひとりの男の子が、私たちに与えられる。主権はその肩にあり、その名は「不思議な助言者、力ある神、永遠の父、平和の君」と呼ばれる。7 その主権は増し加わり、その平和は限りなく、ダビデの王座に着

いて、その王国を治め、さばきと正義によってこれを堅く立て、これをささえる。今より、とこしえまで。万軍の主の熱心がこれを成し遂げる。」(イザヤ書 9 章 6 節-7 節)

4. 全ての権威はキリストに相続されました。ヨハネの福音書の中で、次のようにはっきりと述べられています。

「35 父は御子を愛しておられ、万物を御子の手にお渡しになった。」
(ヨハネの福音書 3 章 35 節)

5. イエスは、御国の継承者である。すべては御子によって始まり、御子によって終わる。これが、彼を際立たせています。イエスは、誰よりも偉大であり、神の王国全体のために彼の前に来たすべての預言者たちは彼に引き渡されました。

- B. しかし、それはイエスが優れている理由の一つに過ぎません。著者は 2 節で続けて次のように言っています。「御子によって世界を造られました。」

1. イエスは御国の相続者であるだけでなく、御国の**創造者**であり、すべての創造者でもあります。

2. イエスは、神を語る創造物よりも偉大です。私たちが知っているような世界を存在させるために語られた言葉だからです。イエスは創造の創始者です。私たちが知っているように世界が形成される前から、そこにおられました。

a. ヨハネは次のように書いています。「1 初めに、ことばがあった。ことばは神とともにあった。ことばは神であった。2 この方は、初めに神とともにおられた。3 すべてのものは、この方によって造られた。造られたもので、この方によらずにできたものは一つもない。」(ヨハネの福音書 1 章 1 節-3 節)

b. 「14 ことばは人となって、私たちの間に住まわれた。私たちはこの方の栄光を見た。父のみもとから来られたひとり子としての栄光である。この方は恵みとまことに満ちておられた。」(ヨハネの福音書 1 章 14 節)

3. 創造物全体がイエスキリストの手によるものなのです。パウロは、コロサイ人への手紙に次のように書いています。「16 なぜなら、万物は御子にあって造られたからです。天にあるもの、地にあるもの、見えるもの、また見えないもの、王座も主権も支配も権威も、すべて御子によって造られたのです。万物は、御子によって造られ、御子のために造られたのです。」(コロサイ人への手紙 1 章 16 節)

4. イエス・キリストが王国と私たちの住む宇宙そのものの創造者であるという事実により、イエス・キリストは他のすべての創造物よりもすぐれています。彼より偉大な者は他に誰もいません。

- C. しかし、それだけではありません。3 節の冒頭を見てみましょう。「御子は神の栄光の輝き」とあります。イエスは神の栄光の輝きなのです。あなたの訳ではイエスは神の栄光の輝きと読めるでしょう。

1. イエスより偉大な啓示、よりすぐれた、あるいはよりすぐれた啓示とは

何でしょうか？ イエスは神の栄光の輝きであるという事実です。

2. 私の聖書（New King James Version）での、「輝き」という言葉は、他の多くの訳では、「apaugasma」という単語です。これは、「～から」という意味の「apo」と「輝く」という意味の「augazo」をつなげた複合語から来ています。この2つを組み合わせると、「輝く」という意味になります。
3. そして、これは非常に重要なことです。キリストは神の栄光を映し出す存在ではありません。キリストは、御父の前において、御父の栄光を映し出しているわけではありません。キリストは神の栄光の輝きなのです。彼は、言ってみれば、神の栄光から放たれる光のビームなのです。
 - a. このように考えてみましょう。月は自ら光を発しません。月を見る時、その表面に太陽の光が反射しているのです。太陽そのものはガスの塊で、私たちは見ることはできません。私たちが見ているのは、太陽から降り注ぐ太陽の光だけなのです。
 - b. これはイエスが何であるかに似ています。イエスは、月のように神の栄光を反射しているのではなく、太陽から放たれる光線のような存在なのです。
4. 旧約聖書でモーセが神と対面した時、彼は雲の中で神と対面しました。彼は神の顔を見ませんでした。神は霊であり、あなたや私のような顔を持っていないからです。モーセが神と顔を合わせてみたのは、神の栄光の輝きでした。
 - a. モーセが主に、神の栄光を見ることができるようにしてほしいと願ったことを思い出していただきたい。しかし、神はモーセに、誰も人は神を見て生きることはできないと宣言しました。

「20 また仰せられた。「あなたはわたしの顔を見ることはできない。人はわたしを見て、なお生きていることはできないからである。」（出エジプト記 33 章 20 節）
 - b. ですから、神が代わりになさったことは、モーセを岩の裂け目に隠し、通り過ぎる間モーセの顔を手で覆い、その手を取り去ると、モーセは神の栄光の裏側を垣間見ることができました。

「22 わたしの栄光が通り過ぎるときには、わたしはあなたを岩の裂け目に入れ、わたしが通り過ぎるまで、この手であなたをおおっておこう。」（出エジプト記 33 章 22 節）
 - c. そして、モーセが知らないうちに、主と共に過ごし、主からの話を聞いた後、神の言葉を聞いた人々に宣言するために戻ってきた時、モーセの顔は輝いていました。それは、彼の前にあった神の栄光の反映であり、輝いていたのです。
 - d. モーセは、太陽を映し出す月のようでした。
5. しかし、イエスはモーセよりもすぐれています。モーセの顔は、主から離れている時はいつも衰えていたからです。彼の輝く顔は、彼の前に会った栄光を映し出しているに過ぎませんでした。

6. しかし、イエスは単に神の栄光を映し出しているのではない。イエスは神の栄光の輝き、明るさであり、輝きそのものであり、それが神をさらに優れたものにします。
- D. 他に何かありますか？では、3 節に続きます。「御子は神の栄光の輝き、また神の本質の完全な現れであり」イエスは、神ご自身のイメージで現わされた姿であるため、よりすぐれた啓示です。イエスは肉体を持った神です。
1. ここで使われている「the express image (現わされた像)」という言葉は、ギリシャ語で、彫刻家が使う印象を指すときに使われる言葉です。この印象は、特定の特徴を持ち、そのイメージを持つ対象物の正確な表現と考えられていました。
 2. イエスキリストは父なる神を正確に現しています。
 - a. コロサイ人への手紙 1 章 15 節では、キリストについて、「御子は、見えない神のかたちであり、」と述べられています。(コロサイ人への手紙 1 章 15 節前半)
 - b. イエスの弟子のひとりでピリポは、イエスに言いました。
「9 イエスは彼に言われた。「ピリポ。こんなに長い間あなたがたといっしょにいるのに、あなたはわたしを知らなかったのですか。わたしを見た者は、父を見たのです。どうしてあなたは、『私たちに父を見せてください』と言うのですか。10 わたしが父におり、父がわたしにおられることを、あなたは信じないのですか。わたしがあなたがたに言うことばは、わたしが自分から話しているものではありません。わたしのうちにおられる父が、ご自分のわざをしておられるのです。」(ヨハネの福音書 14 章 9 節－10 節)
 3. 御父の現わされたイメージとして、イエス・キリスト以上に御父と御父の御言葉を明らかにする人がいるのでしょうか？御父の本質と本性を私たちに知らせるのはキリストなのです。
 - a. ヨハネの福音書 1 章 18 節には、次のように書かれています。「18 いまだかつて神を見た者はいない。父のふところにおられるひとり子の神が、神を説き明かされたのである。」(ヨハネの福音書 1 章 18 節)
 - b. イエスは、父の内におられ、そして父はイエスの内におられる。そして、イエス・キリストは、御父を私たちに宣言されました。イエスは、御父を私たちに明らかにされました。イエスは、人間の肉体を持った神です。
- E. 3 節は続きます。「その力あるみことばによって万物を保っておられます。」
1. ヘブル人への手紙の著者が、イエスは万物を保っておられると述べているのは、イエスが万物を維持しておられ、神の御心と御計画を実現するために、万物が共に働くようにしておられるという意味です。イエスは万物の調整者なのです。
 2. つまり、イエスは万物を創造されただけでなく、万物が神の御計画と願いに従って機能していることを保証されるのです。イエスは、すべて

のものを持続され、維持され、そして一つに保つことを保証されるのです。

3. イエスは、神の御言葉の力によって世界を創造し、その同じ御言葉の力によって世界を一つにまとめておられます。
 - a. 宇宙ではあらゆるものが猛烈なスピードで回転していると言う事実を思い出してください。それでもパターンやデザインは保たれています。ただぶつかってあちこちで爆発するわけではありません。なぜでしょうか？
 - b. なぜなら、イエス・キリストが、神の御言葉の力によってすべてを一つに保っておられるからです。
 - c. キリストの御言葉が宇宙全体を一つにするほどの力があるのなら、あなたの結婚生活や子育て、制御不能に陥りそうなあなたの恐れられている、あなたの正気に対して、それがどのように影響を与えていると思いますか？
 - d. キリストの御言葉は、あなたの結婚生活をつなぎとめるのに十分な力があり、家族をつなぎとめるのに十分な力があり、あなた方を一つに保つのに十分な力があります。
 - e. 神の御言葉は次のように約束しています。「**28 神を愛する人々、すなわち、神のご計画に従って召された人々のためには、神がすべてのことを働かせて益としてくださることを私たちは知っています。**」（ローマ人への手紙 8 章 28 節）
 4. キリストは、これらのことをすべて成し遂げてくださる。主が意図された通りにすべてが進むように見守ってくださる。イエスは、創造物を支え、神の計画の栄光と成就をもたらすようにして下さる。
 - a. ピリピ人への手紙 1 章 6 節によれば、私たちは次のことができます。「**6 あなたがたのうちに良い働きを始められた方は、キリスト・イエスの日が来るまでにそれを完成させてくださることを私は堅く信じているのです。**」（ピリピ人への手紙 1 章 6 節）
 5. イエス・キリストは、神の創造物の支持者であり指揮者です。イエス・キリストは、神が創造されたすべての物を支え、すべてのものが意図された結末を迎えるようにしてくださる。
- F. しかし、それだけではありません。3 節は続けて、「また、罪のきよめを成し遂げて、」とあります。イエスがよりすぐれた啓示、すぐれた啓示である理由は何でしょうか？ イエスご自身が私たちの罪を清める力を持っているという事実です。
1. 神の過去の啓示の欠陥の 1 つは、創造物、そして特に神の創造物の一部である私たちに対する罪の影響であったことを思い出してください。私たちは、神の真理に従って生きたくないのです、私たちに明らかにしている神の真理を抑圧しました。
 2. 聖書が証言しているように、「**19 そのさばきというのは、こうである。光が世に来ているのに、人々は光よりもやみを愛した。その行いが悪か**

ったからである。20 悪いことをする者は光を憎み、その行いが明るみに出されることを恐れて、光のほうに来ない。」(ヨハネの福音書 3 章 19 節-20 節)

3. 私たちの人生の中にあり罪のせいで、私たちはその知識、神が私たちに与えていた光を抑圧していました。しかし、イエスが現れ、ご自身によって、私たちの罪を清めてくださいました。
 - a. そして、聖書の **New King James Version** によれば、キリストご自身でそれをなされたということに注目することが重要だと思います。残念ながら、「自ら」という言葉は多くの現代語訳では省略されていますが、**New King James Version** の聖書に使われている写本にはあります。
 - b. これは重要な違いだと思います。イエスはご自身で私たちの罪を清められました。誰もそれを助けることはできませんでした。イエスご自身がすべてなされたのです。イエスが十字架にかかり、私たちの罪の代価を支払われた時、御父は御子を見捨てられたように見えました。イエスはご自身でそれをなされたのです。
 - c. 私たちにはできませんでした。私たちは罪に対して無力でした。キリストだけが来られ、ご自身を捧げることによって、私たちの罪を清めてくださいました。
 4. キリストが私たちのためにしてくださったことのおかげで、私たちは罪の汚れから洗われ、清められたのです。そして今、私たちは神の恵みの中に生き、神の恵みと知識の中で成長することができます。イエスと共に歩むにつれて、主と私たちの人生に対する主の御心がますます明らかになってきます。
- G. 3 節は次のように終わっています。「すぐれて高い所の大能者の右の座に着かれました。」これは、天国におけるキリストの位置を語っています。
1. 罪と墓を打ち破った後、墓からよみがえられたイエスは、天国の御父の元に昇られ、天国の神の右の座に着かれました。
 2. 天国で神の右の座におられることは、権威について語っています。それは、天国の王としての支配と統治を語っています。
 3. しかし、非常に重要なことに注目していただきたい。神の右の座に座られたと書かれてあります。
 4. ユダヤ人の聞き手にとって、これは大きなショックだったことでしょう。彼らが知っていたのは、大祭司の仕事と宣教だけでした。大祭司は、贖罪の日に彼らの罪を贖うために人々に犠牲を捧げていました。要するに、人々の罪を清めようとするものです。
 5. 私たちは、水曜日の夜にレビ記を読んでいて、贖罪の日に関する詳細を読んだところです。
 - a. 贖罪の日には、大祭司だけが幕屋に入ることができ、聖なる場所を超えて神の御前に出て雄牛と山羊の血を箱の上の慈しみの座に振りかけることができました。

- b. 大祭司は、東から幕屋に入り、その右側、すなわち幕屋の北側にはパンの台があり、左側には、すなわち南側には純金の灯台があります。右手には香の祭壇があり、ベールの前に立っていました。ベールの反対側には、契約の箱があり、その上には慈しみの座がありました。
 - c. 幕屋の中に何がなかったか知っていますか？祭司が座するための椅子です。椅子がなかったのは、祭司の仕事が終わらなかったからです。祭司はどんなにいけにえを捧げても、それを何度も何度も捧げ続けなければならなかったのです。
 - d. しかし、私たちの偉大な大祭司であるキリストは違います。雄牛や雄やぎのいけにえは、私たちの罪を取り除くには不十分だったが、神の子羊、イエスキリストの血は、あなたや私、あるいはキリストを信じるようになるこの世の全ての人が犯しうる、一つ一つの罪を取り除くのに十分な力を持っていました。
 - e. イエスは神の右の座に座っておられる。なぜなら、イエスの働きは完了したからです。イエスは神の贖いの計画を完成されました。その生涯、死、そして復活を通して、キリストは人類が御父と和解する道を切り開きました。神の偉大な贖いの計画は完成されました。
6. そして、キリストが神の右の座に座って何をされているのか知っていますか？あなたや私たちのことを考えているのです。私たちのために執り成しをしているのです。
- a. ヘブル人への手紙の後半で、キリストの変わることはない祭司職について読むこととなります。いかにキリストが私たちのために祈り、私たちのために執り成すことを止めないか。キリストは、私たちのために執り成しをするために生きておられます。「25 したがって、ご自身によって神に近づく人々を、完全に救うことができようになります。キリストはいつも生きていて、彼らのために、とりなしをしておられるからです。」(ヘブル人への手紙 7 章 25 節)
 - b. ということです。キリストがこの地上でなさった御業は完了しました。天国ではキリストは絶えず私たちのために打席に立っておられます。
 - c. ヨハネの手紙第一 2 章は、キリストを御父との弁護者として説明しています。私たちが罪を犯し失敗した時、イエスは私たちに代わって御父に語りかけ、ご自身が私たちの罪のための身代わりであると主張されるのです。「1 私の子どもたち。私がこれらのことを書き送るのは、あなたがたが罪を犯さないようになるためです。2 もしだれかが罪を犯すことがあれば、私たちには、御父の前で弁護する方がいます。義なるイエス・キリストです。この方こそ、私たちの罪のための—私たちの罪だけでなく、世全体のための—なだめの供え物です。」(ヨハネの手紙第一 2 章 1 節—2 節)
 - d. 世の中には、いつも私たちを非難し、責め立てようとする者がいま

す。兄弟たちを告発する悪魔は、主の前に出て、「グレンがまた何をしたか見てみろ！」と言います。なんてことだ、彼はただの負け犬だ、彼は落ちこぼれだ、そんな人を神様がどうして愛せると言うのか？」

e. そして、イエスは、神の右の座の前におられて、言います。「父よ心配はいらない。私とその罪を支払いました。彼は私の血で洗われました。」

f. ローマ人への手紙では次のようにあります。

「34 罪に定めようとするのはだれですか。死んでくださった方、いや、よみがえられた方であるキリスト・イエスが、神の右の座に着き、私たちのためにとりなしてくださるのです。35 私たちをキリストの愛から引き離すのはだれですか。患難ですか、苦しみですか、迫害ですか、飢えですか、裸ですか、危険ですか、剣ですか。

36 「あなたのために、私たちは一日中、死に定められている。私たちは、ほふられる羊とみなされた。」と書いてあるとおりです。

37 しかし、私たちは、私たちを愛してくださった方によって、これらすべてのことの中にあっても、圧倒的な勝利者となるのです。

38 私はこう確信しています。死も、いのちも、御使いも、権威ある者も、今あるものも、後に来るものも、力ある者も、39 高さも、深さも、そのほかのどんな被造物も、私たちの主キリスト・イエスにある神の愛から私たちを引き離すことはできません。」(ローマ人への手紙 8 章 34 節－39 節)

7. 何がキリストをよりすぐれた啓示としているのでしょうか？ キリストの他にはない私たちへの愛なのです。今この瞬間も、キリストは天国であなたや私のことを思い、私たちに代わって執り成しくださっているのです。本当に、私たちの主であり救い主であるイエスキリスト以上に偉大な方はおられません。アーメンですね？アーメン！祈りましょう。